
硝子の少女

ロクロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

硝子の少女

【Nコード】

N7275J

【作者名】

ロクロウ

【あらすじ】

白き塔に幽閉されし少女。孤独を愛するその心は狂気に捧げられていた。変化無き環境に満足し、それを妨げるものをことごとく排除してきた彼女にとって毎日とは今日も昨日も数年前も同じものだった。が…。

1（前書き）

まだ初心者ですのでつたないところもあります。

誤字・脱字を発見されましたら教えて下さるとありがたいです。

地の果ての果て。そのまた向こう。

白い塔が声もなく。音といえば吹く風ばかり。砂の囁きも聞こえるという。塔の周りに塔はなく、唯ひび割れた大地だけ。

唯乾き、開けた世界だけ…。

人跡未踏の地に見えた。けれど塔は人のもの。だから少女はそこにいた…。

そつと静かにそこにある、姿はまるで硝子細工。人の形の人ではないもの。言うなら、それは、良く出来た人形。

彼女は閉じ込められていた。そこは牢獄。鍵は要らない。本当なら扉も壁も要らないし、窓も大きくてかまわない。例え、幾つあっても変わらないのだし。

何故かって？

簡単な事だ。彼女は逃げようとしなない。

いや、それよりも逃げる事など思いつきもしない、と言った方が正しいのかもしれない。

ともかく、彼女は逃げることを必要としていなかった。

だからたった一人きりで、膝を抱えて座っていた。

特に何をするでもなく、考える時は考えて。部屋の変化は窓辺ぐらい。もつとも窓 正確には丸い穴

はとても高くて、彼女には覗けなかったから、そこから差し込む光だけ。他に時を示すものもなく、あるのは、大きな寝椅子だけ。

それでも少女は気にしない。無関心なのだ。

ひたすら座って時を待つ。自分が死せるその日まで。側から見れば狂人のそれ。話しかけるべき者もなし。

彼女は永き時を生きる者。

名前はあつたが覚えていない。

ずっと呼んでくれる人がいなかったから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7275j/>

硝子の少女

2010年10月14日13時55分発行